

市の助言内容と申出者の意見

市の助言	申出者の意見
<p>1 遠景からの見え方について</p> <p>この建築物は、周囲の建築物から突出した高さとなることから、遠くから見た場合に目立ちやすいものとなることが想定されます。このことを前提として、以下の点について検討してください。また、これらの検討にあたっては、石山通を視点場とした遠景からの見え方についても考慮してください。</p>	
<p>1</p> <p>居住者がこの建築物に愛着を持つことは、今後の維持管理を含め、良好な景観を形成していくうえで重要ですが、札幌の景観が市民共通のかけがえのない財産であることを踏まえると、この建築物のデザインを、居住者だけでなく市民からも受け入れられるものとしていくことが重要です。この中で、現在の計画では、居住者に愛着を持ってもらうことを目的の1つとして、建築物の頂部を昼夜間に際立って見えるデザインとしていますが、頂部を際立たせることは、札幌らしさの1つである「広い空」との調和を欠くなど、市民の視点からは望ましくないデザインとなることが懸念されます。以上を踏まえ、頂部のデザインに関して、際立たせること以外の考え方によりデザインすることができないか、検討してください。</p>	<p>立面図で蝦夷栗鼠に近似しているとしていましたパラペットのタイルは、再度メーカーが提示しているマンセル値(2.8YR6.6/4.7)と比較をして景観色のベージュに近似していましたので訂正いたします。</p> <p>また、ブルーのタイルが郭公近似色であることから、同じシリーズのタイルで一段階淡い色の蝦夷珊瑚索近似色のタイルも検討をしました。</p> <p>石山通から本計画を見ると、高層部分がより目立つことを考慮した上で、タイルを自然光にあてて検証をしたところ、ラスタータイル特有の反射でタイル自体が明るく見えましたが、頂部であることから距離により明度が上がり、彩度が下がることから頂部が際立ちすぎないことを確認しました。</p> <p>以上のことから、自然光の中で見ることを考慮すると原案ブルー(郭公近似色)+原案ベージュ(ベージュ近似色)の方でも中層部・高層部との色合いのギャップは少ないと考え、原案のまましたいと思います。</p>
<p>2</p> <p>中層部の外壁の色彩(マンセル値5YR9/0.5)は、光が当たるとほとんど白に見える色です。この色彩と頂部の外壁の濃い色彩の対比が頂部を更に際立たせる要因となっていることから、頂部のデザインについて検討を行うにあたっては、上記(1)の検討に加え、それぞれの色彩のバランスについても検討してください。</p>	<p>パラペットのタイルの色合いを考慮して、ベースカラーを15-90A(百合が原近似色)から72-80D(雪影近似色)にすることで、パラペットのタイル色に対する色合いの差を少なくする検討をしました。</p> <p>この結果、ベースカラーを72-80D(2PB8/2)とし、アクセントに15-60F(5YR6/3)、またアクセントカラーの壁の両側の柱を15-90A(5YR9/0.5)とします。</p> <p>また、アクセントカラーの壁の両側の柱を15-90A(5YR9/0.5)から12-50H(2.5YR5/4)に変更する検討をしたいと考えておりますが、施工時に</p>

		大判の塗見本を作成し、屋外にて見え方の確認をして決定をしたいと思います。
3	バルコニー手摺のガラス面への映り込みや反射は、建築物の見え方に大きな影響を与えることから、ガラスにどのようなフィルムを貼るのかなどについても、十分な検討を行ってください。	低層部は歩行者から住戸内が見えないようなグレーのフィルムを、中高層部は空の色を映し込んで空に溶け込ませるようにクリアのフィルムを使用します。また、ガラスはLow-e ガラスではないため、鏡面の様な反射はしません。
2 中景・近景からの見え方について		
歩行者の視線に入りやすい低層部のつくりは、良好な景観の形成にとって重要な要素であることを踏まえ、以下の点について検討してください。また、これらの検討にあたっては、歩行者からの実際の見え方をパース等により予測しながら進めるよう、努めてください。		
1	南面1階部分について、X4通よりも東側の部分の外観がバックヤード的な印象を受けるデザインとなっていますが、X4通よりも西側の部分と一体的なデザインとするなど、デザイン的な工夫を施すことにより、バックヤード的な印象を少しでも軽減することができないか、検討してください。	南側 X4 通り以东は色彩豊かな植栽計画として、歩道から見た時に壁面がバックヤードのように見えないように修景をして、視線を植栽に誘導できるように計画します。
2	北側道路との接道部分については、多くの方がアプローチとして利用することが想定されるため、植栽を施すなど、裏手であるという印象を少しでも軽減することができないか、検討してください。	北側の見え方を検討した結果、北側道路の接道部にはアプローチにインターロッキングを用いたり、マンション名をステンレスの切文字で表現したサインを設けることで、マンションの出入口らしいデザインとします。
3	館銘板について、スポットライトによる照明方法とすることとしていますが、ステンレス地に乳半の文字で館名を記載した場合、スポットライトによる照明では、文字が見えなくなるおそれがあるため、仕様の再検討をお勧めします。	外照式にした場合にも、夜間の視認性に問題はないか、施工時に照明の位置等については現場にて再度確認をし、必要な対策を取ります。
3 歩行者の安全性等への配慮について		
1	南2条線側に設ける駐車場の出入口については、当該道路が、歩行者、車両とも通行量の多い道路となっているため、ブザーやパトライトなど、歩行者の安全を考慮したサインの設置について検討してください。	敷地からの出入口部分には左右にカーブミラーを設けます。また、出入口付近の植栽は低木や草花のみとして、視界を妨げないようにすることで車の出入り時における歩行者の安全性について配慮しています。
2	前面道路の歩道に、部分的にロードヒーティングを敷設することとしておりますが、ロードヒーティングの切れ目部分で雪の段差が生じることにより、かえって安	南側のエントランス前のロードヒーティングを取り止めることで、段差が発生する箇所を最小限とします。

	<p>全・快適な歩行環境を阻害するおそれがあります。段差の影響が少しでも低減されるよう、設計・管理の両面から検討してください。</p>	
<p>4 居住者への働きかけ等について</p>		
<p>1</p>	<p>建築物の外部へとにじみ出る居住者の「暮らし」は、建築物の見え方に大きな影響を与えます。居住者それぞれの暮らしがある中で困難な部分も多いとは思いますが、市民一人ひとりが良好な景観をつくっていくという機運を高めていくためにも、居住者（居住予定者）に対して、良好な景観の形成につながる暮らし方の提案や啓発を行っていただくとともに、このような暮らし方を容易にする設計上の工夫についても検討されることを期待します。</p>	<p>購入後のインテリアや照明の選択は居住者の自由であるため制限をすることはできませんが、外部からの見え方として2,3階はバルコニー手摺を躯体手摺とし、4～9階はグレーのガラス手摺とすることで、外部へとにじみ出る居住者の暮らしによる景観への影響を少なくする配慮をします。</p>